Acronis Backup & Recovery 11

Update 0

インストール ガイド

適用されるエディション

- ☐ Advanced Server
- ☐ Virtual Edition
- ☐ Advanced Server SBS Edition
- ☐ Advanced Workstation
- ☐ Server for Linux
- ☑ Server for Windows
- ☑ Workstation

Copyright © Acronis, Inc., 2000-2011. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis Secure Zone」は、Acronis Inc. の登録商品です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis リカバリ マネージャ」、「Acronis Active Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis, Inc. の商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態(紙媒体など) であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません(免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く) 。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。 サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。 本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、http://kb.acronis.com/content/7696 をご参照ください。

目次

1 インストールする前に 4

1.1 ライセンスの種類(スタンドアロン エディションと アドバンスト エディション) 4

1.2 Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネント 5

1.2.1 エージェント for Windows 5

1.2.2 管理コンソール 6

1.2.3 ブータブル メディア ビルダ 6

1.3 サポートされるオペレーティング システム 6

1.4 システム要件 7

2 Acronis Backup & Recovery 11 のインストール 8

2.1 準備 8

2.2 スタンドアロン エディションでの対話型インストール 8

2.3 Acronis サービスのログイン情報の指定 9

2.4 無人インストール 9

2.5 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ 11

2.6 アップデート 12

3 試用版から完全製品版へのアップグレード 14

3.1 試用版の制限 14

3.2 ライセンスの変更 14

4 ソフトウェアのアップデートの確認 15

5 Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストール 16

5.1 対話型アンインストール 16

5.2 無人アンインストール 16

5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除 17

1 インストールする前に

このセクションでは、製品のインストール前に生じることが予期される疑問点について説明します。

1.1 ライセンスの種類(スタンドアロン エディションと アドバンスト エディション)

Acronis Backup & Recovery 11 のライセンスは、製品によってバックアップするコンピュータの数に基づきます。

スタンドアロン エディション

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11 Server for Windows
- Acronis Backup & Recovery 11 Server for Linux
- Acronis Backup & Recovery 11 Workstation

スタンドアロン エディションは、単一のコンピュータのデータをバックアップするためのものです。上記のライセンスがあれば、すべての製品コンポーネントを同じコンピュータにインストールできます。製品にインストール中に、上記のエディションのいずれかのプロダクト キーを要求されます。

Advanced エディション(集中管理を伴うエディション)

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server
- Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition
- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server SBS Edition
- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Workstation

これらのエディションは、複数のコンピュータをバックアップするためのものです。これらのエディションには、バックアップ対象のコンピュータにインストールする必要があるコンポーネントに加え、集中管理を可能にする管理サーバー、およびバックアップしたデータを保存するためのストレージ ノードが含まれています。スタンドアロン エディションとは異なり、アドバンスト エディションではバックアップされたコンピュータにリモート接続できます。

スタンドアロン エディションと同様、バックアップするコンピュータそれぞれのライセンスが必要です。ライセンスが必要なコンポーネント(エージェント) のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。他のコンポーネントのインストールにライセンスは必要ありません。たとえば、ストレージ ノードは最大 50 までの必要な数をインストールすることが可能です。

スタンドアロン エディションのコンポーネントが、アドバンスト エディションのコンポーネントとやり取りをすることはありません。

Copyright © Acronis, Inc.

1.2 Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントとその機能の概要について説明します。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント(エージェント)

これらは、Acronis Backup & Recovery 11 によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。エージェントには追加の機能を実行できるようにする複数の機能またはアドオンが含まれているので、追加のライセンスが必要になることがあります。

コンソール

コンソールには、エージェントに対するグラフィカル ユーザー インターフェイスがあります。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。Acronis Backup & Recovery 11 のスタンドアロン エディションでは、コンソールはエージェントと一緒にインストールされるためエージェントから切断することはできません。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。Acronis Backup & Recovery 11 のスタンドアロン エディションでは、ブータブル メディア ビルダはエージェントと一緒にインストールされます。インストールされた場合、エージェントへのすべてのアドオンがレスキュー環境で利用可能になります。

1.2.1 エージェント for Windows

このエージェントを使用して、Windows の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスクのバックアップ

ディスク レベルでのデータ保護は、ディスク全体またはボリューム ファイル システム全体と、オペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、または、セクタ単位のバックアップを使用したすべてのディスク セクタのバックアップ(RAW モード) を基にしています。ディスクまたはボリュームのコピーがパッケージ モードで格納されているバックアップを、ディスク(ボリューム)バックアップまたはディスク(ボリューム) イメージと呼びます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体をリカバリすることも個別のフォルダやファイルをリカバリすることもできます。

ファイルのバックアップ

ファイル レベルでのデータ保護は、エージェントがインストールされているコンピュータ、またはネットワーク共有上にあるファイルおよびフォルダのバックアップに基づいています。ファイルは、元の場所にも他の場所にも復元できます。バックアップしたすべてのファイルおよびフォルダを復元したり、復元する対象を選択することが可能です。

Copyright © Acronis, Inc.

その他の操作

仮想コンピュータへの変換

ディスク バックアップを仮想ディスク ファイルに変換すると追加の操作によって仮想ディスクを使用可能にする必要があるため、エージェント for Windows では、VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Parallels Workstation、Citrix XenServer オープン仮想アプライアンス(OVA) 、Red Hat Kernel-based Virtual Machine(KVM) の新しい仮想コンピュータにディスク バックアップを復元する方法で変換を実行します。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したフォルダに保存されます。それぞれの仮想化ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

ディスクの管理

エージェント for Windows には、Acronis Disk Director Lite(使いやすいディスク管理ユーティリティ) が用意されています。ディスクのクローン作成、ディスクの変換、ボリュームの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームの削除などのディスク管理操作、および MBR と GPT の間のディスク パーティション スタイルの変更、ディスク ラベルの変更などの操作は、オペレーティング システムで実行するかブータブル メディアを使用して実行することができます。

Universal Restore

Universal Restore アドオンを使用すると、エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどのオペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

1.2.2 管理コンソール

Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールは、Acronis Backup & Recovery 11 エージェントにローカルでアクセスするための管理ツールです。エージェントにはリモート接続できません。

1.2.3 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。Windows 上にインストールするメディア ビルダは、Windows プレインストール環境、または Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

Universal Restore (6ページ) アドオンを使用して、異なるハードウェアの復元機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。 Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの Windows の起動にとって重要なデバイスの相違に対応できます。

1.3 サポートされるオペレーティング システム

Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows

Acronis Backup & Recovery 11 Server for Windows

Windows XP Professional SP2 以降(x86、x64)

Windows 2000 SP4: Datacenter を除くすべてのエディション

Copyright © Acronis, Inc.

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2003/2003 R2
Windows Vista: すべてのエディション(x86、x64)
Windows 7: すべてのエディション(x86、x64)
Windows Server 2008: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2008
Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
Windows MultiPoint Server 2010
Windows Small Business Server 2011
エージェントにはリモート接続できません。

Acronis Backup & Recovery 11 Workstation

Windows 2000 Professional SP4
Windows XP Professional SP2 以降(x86、x64)
Windows Vista: すべてのエディション(x86、x64)
Windows 7: すべてのエディション(x86、x64)
エージェントにはリモート接続できません。

1.4 システム要件

Windows にインストールされるコンポーネント

エディション名	メモリ(OS および実行中のアプリケーションに必要な容量)	インストールまたはアップデートに必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	その他
Server for Windows	80 MB	1.7 GB	850 MB	画面解像度 1024 x 768 ピクセル以上
Workstation	80 MB	1.7 GB	850 MB	
ブータブル メディア ビルダ(Windows)	80 MB	1.1 GB	305 MB	

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	その他
Windows PE ベース	640 MB	300 MB	
Linux ベース	512 MB	310 MB	

Copyright © Acronis, Inc.

2 Acronis Backup & Recovery 11 のインストール

このセクションでは、製品のインストール時に生じることが予期される疑問点について説明します。

2.1 準備

ネットワーク ポート: Acronis Backup & Recovery 11 では、ローカルのインストールおよびコンポーネント間の通信に TCP ポート **9876** を使用します。このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。

暗号化ソフトウェア:PGP Whole Disk Encryption などのディスクレベルの暗号化ソフトウェアを使用する予定がある場合は、必ずそのソフトウェアを Acronis Backup & Recovery 11 のインストール**前に**インストールしてください。

2.2 スタンドアロン エディションでの対話型インストール

Acronis Backup & Recovery 11 をインストールする手順は、次のとおりです。

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup & Recovery 11 セットアップ プログラムを起動します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. 次のいずれかを実行します。
   - 製品の(オンライン バックアップを含む) すべての機能をインストールするには、**[すべての機能を使用できる Acronis Backup & Recovery 11]** をクリックします。
   - 製品のオンライン バックアップ機能のみをインストールするには、**[オンライン バックアップ専用 Acronis Backup & Recovery 11]** をクリックします。
5. 製品のすべての機能をインストールする場合は、プロダクト キーを入力します。また、Acronis Universal Restore のプロダクト キーも追加できます(購入した場合) 。
6. 製品のインストール先フォルダを指定します。
7. エージェント for Windows サービスを実行するアカウントのログイン情報を指定します。デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービス専用のユーザー アカウントが作成されます。「Acronis サービスのログイン情報の指定」 (9ページ 』で **Acronis エージェント ユーザー** アカウントに関する情報を表示します。
8. コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム(CEP) に参加させるかどうかを選択します。

概要ウィンドウには、以前に入力されたプロダクト キーに応じてインストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

注意: インストール手順をキャンセルすると、最後のコンポーネントのみが削除されます。他のコンポーネントがある場合は、インストールされたままになります。

Copyright © Acronis, Inc.

2.3 Acronis サービスのログイン情報の指定

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows は、サービスとして実行されます。このコンポーネントのインストール時に、エージェントのサービスを実行するアカウントを指定する必要があります。

専用のユーザー アカウントを作成するか、ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーの既存のアカウントを指定できます。

サービス専用のユーザー アカウントを作成する場合(推奨) 、次のアカウントがセットアップ プログラムによって作成されます:

- **Acronis Agent User**

新しく作成されたアカウントには、次の権限が与えられます:

- アカウントには、**サービスとしてログオン**、**プロセスのメモリ クォータの増加**、および**プロセス レベル トークンの置き換え**のユーザー権限が与えられます。
- アカウントは、**Backup Operators** および **Administrators** グループ内に含まれます。

既存のローカル ユーザー アカウントまたはドメイン ユーザー アカウント(**¥LocalUser** や **DomainName¥DomainUser** など) を指定する場合は、そのアカウントが **Backup Operators** グループのメンバであることを確認してからインストールを続行してください。セットアップ プログラムによって、上記のユーザー権限がこのアカウントに割り当てられます。

コンピュータが Active Directory ドメインの一部である場合、ドメインのセキュリティ ポリシーによって、アカウントに上記のユーザー権限が付与されないことがないよう確認してください。

重要: インストール後は、エージェント サービスに対して異なるユーザー アカウントを指定しないでください。指定すると、エージェントが動作を停止する可能性があります。

2.4 無人インストール

Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントは、対話型モードの他に、無人モードでもインストールすることができます。

少なくとも Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント コア、および Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows をインストールする必要があります。

最初に管理コンソールをインストールします。その他のコンポーネントは、**トランスフォーム**(.mst ファイル) と呼ばれるファイルを必要とします。コンポーネントで使用されるトランスフォームを作成するには、コンフィギュレーション スクリプト mst_gen.vbs が必要です。このスクリプトは、管理コンソールがインストールされているフォルダに入っています。デフォルトでは、このフォルダ名は C:¥Program Files¥Acronis¥BackupAndRecoveryConsole です。また、このセクション後半にある「トランスフォームの作成例」も参照してください。

次のコンポーネントと機能は、無人モードでインストール、再インストール、またはアップデートできます。

- Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール:
  AcronisStandaloneManagementConsole.msi

Copyright © Acronis, Inc.

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント コア: **AcronisAgentCore.msi** (トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows: **AcronisAgentWindows.msi** (トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 Universal Restore: **AcronisUniversalRestore.msi** (トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 ブータブル メディア ビルダ: **AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi** (トランスフォームが必要です)

エージェントのインストール順序

エージェントをインストールする場合、まず、エージェント コア コンポーネント、次にエージェント自体、最後に(必要に応じて) Universal Restore 機能をインストールします。

インストール手順

コンポーネントを無人モードでインストール、再インストール、アップデートする手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。
3. コンポーネントのインストール パッケージを取り出します。
4. トランスフォームを必要とするコンポーネントをインストールする場合、コンフィギュレーション スクリプトを実行して、トランスフォームを作成します。それ以外の場合は、この手順をスキップします。

   たとえば、次のようになります。

   - 次のコマンドでは、エージェント コア コンポーネントをインストールするためのトランスフォームが作成されます。

     ```
     mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentCore.msi
     ```

   - 次のコマンドは、プロダクト キー ABCDE-54321 を使用して エージェント for Windows をインストールするトランスフォームを作成します。

     ```
     mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /serial ABCDE-54321
     ```

     同様に、Universal Restore 機能をインストールするためのトランスフォームを作成できます。

   コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細は、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ (11ページ 』」をご参照ください。
5. 次のいずれかの方法を使用して、コンポーネントのインストール、再インストール、またはアップデートを行います。

   - コンポーネントをインストールする場合、次のように Windows インストーラ(msiexec プログラム) を実行します。

     トランスフォームを必要とするコンポーネント(この例では、エージェント for Windows) をインストールする場合:

     ```
     msiexec /i c:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=AcronisAgentWindows.mst /qb
     ```

     それ以外の場合(この例では、管理コンソールをインストール) :

     ```
     msiexec /i c:\AcronisStandaloneManagementConsole.msi /qb
     ```

   - コンポーネントを再インストールまたはアップデートする場合は、次のように Windows インストーラを実行します。

 Copyright © Acronis, Inc.

ライセンスを必要とするコンポーネント(この例では、エージェント for Windows) を再インストールまたはアップデートする場合:

```
msiexec /i C:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=C:\AcronisAgentWindows.mst ADDLOCAL=ALL /qb
```

それ以外(この例では、管理コンソール) の場合:

```
msiexec /i C:\AcronisStandaloneManagementConsole.msi ADDLOCAL=ALL /qb /l*v C:\log.log
```

2.5 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ

コンフィギュレーション スクリプト mst_gen.vbs は、Acronis コンポーネント(Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows など) の .mst インストール パッケージ ファイル(トランスフォーム、変更、または変更ファイルとも呼ばれます) を作成します。

インストール パッケージとともにトランスフォームを使用すると、コンポーネントを無人モードでインストールできます。

コンフィギュレーション スクリプトの完全な構文を次に示します。

```
mst_gen.vbs
   /msi_path <フル パス>
   [/target_dir <インストール フォルダ>]
   [/account <ユーザー名> <パスワード>]
   [/cep_enabled]
   {/serial <プロダクト キー> [/old_serial <ABR10 プロダクト キー>] | /online_backup}
   [/current_user]
```

このスクリプトのパラメータについて説明します。

あらゆるコンポーネントに適用されるパラメータ

/msi_path <フル パス>

コンポーネントのインストール パッケージのフル パスを指定します。
D:¥folder¥AcronisAgentWindows.msi などのローカル パス、または **¥¥server¥folder¥AcronisAgentWindows.msi** などの汎用名前付け規則(UNC) のパスを入力します。

/target_dir <インストール フォルダ>

コンポーネントのインストール先フォルダを指定します。このパラメータを指定しないと、コンポーネントはデフォルト フォルダ(%ProgramFiles%¥Acronis) にインストールされます。

エージェント コア コンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentCore.msi にのみ適用されます。

/account <ユーザー名> <パスワード>

コンピュータで Acronis Managed Machine Service を実行するユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。このユーザー アカウントには適切な権限が必要です(「Acronis サービスのログイン情報の指定 (9ページ)」を参照してください) 。ドメイン名とアカウント名は **mydomain¥User** のように円記号で区切ります。

このパラメータを指定しないと、エージェントはデフォルトのアカウント(**Acronis Agent User**) で実行されます。

Copyright © Acronis, Inc.

/cep_enabled

コンピュータをカスタマ エクスペリエンス プログラムに参加させるかどうかを指定します。

このパラメータを指定すると、ハードウェア構成、使用頻度の最も高い機能と最も低い機能、および問題に関する情報が自動的にコンピュータから収集されて、定期的にアクロニスに送信されます。参加条件については、アクロニスの Web サイトを参照してください。

このパラメータを指定しないと、情報は送信されません。

ライセンスを必要とするコンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentWindows.msi、AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi、および AcronisUniversalRestore.msi(/online_backup パラメータを除く) にのみ適用されます。

/serial <プロダクト キー>

コンポーネントのインストール時に使用するプロダクト キーを指定します。プロダクト キーは、ダッシュで区切られた一連の英数字です。プロダクト キーはダッシュも含めて正確に入力してください。

/old_serial <以前のプロダクト キー>

Acronis Backup & Recovery 10(ABR10) からアップグレードする際に、その製品のプロダクト キーを指定します。このパラメータは /serial パラメータとともに使用します。

/online_backup

コンポーネントをオンライン バックアップ専用にインストールする場合に指定します。プロダクト キーは不要です。

注意: /serial パラメータまたは /online_backup パラメータのどちらかを指定します。同時に両方を指定することはできません。

管理コンソールにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisStandaloneManagementConsole.msi にのみ適用されます。

/current_user

コンポーネントを、コンピュータ上のすべてのユーザー用にインストールするのではなく、現在のユーザー用のみにインストールする場合に指定します。

2.6 アップデート

Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントを 1 つ以上アップデートする手順は、次のとおりです。

1. アップデートされたバージョンの Acronis Backup & Recovery 11 のセットアップ プログラムを実行します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. **[アップデート]** をクリックします。
4. メッセージが表示されたら、製品のプロダクト キーを入力します。
5. 画面の指示に従います。

Copyright © Acronis, Inc.

無人モードでのコンポーネントのアップデート

無人モードでコンポーネントをアップデートする詳細については、「無人インストール (9ページ 』」を参照してください。

Copyright © Acronis, Inc.

3　試用版から完全製品版へのアップグレード

インストールに必要な試用版のプロダクト キーは、アクロニスの Web サイトで入手できます。

試用版から標準の製品にアップグレードするために、ソフトウェアを再ダウンロードする必要はありません。試用期間が終了すると、製品の GUI に標準のプロダクト キーを指定するように求める通知が表示されます。

標準のプロダクト キーを指定するには、管理コンソールの **[ライセンスの変更]** ウィンドウを使用します。セットアップ プログラムを実行することによって標準のキーを指定することはできません。

3.1　試用版の制限

Acronis Backup & Recovery 11 の試用版には、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能は使用できません。ユーザー インターフェイスを試用することはできますが、変更を適用するオプションはありません。
- 復元機能は使用できますが、バックアップ機能は使用できません。バックアップ機能を試用するには、本ソフトウェアをオペレーティング システムにインストールしてください。

3.2　ライセンスの変更

ライセンスを変更することで、異なるバージョンまたはエディションの製品に切り替えます。次の表は、使用可能なオプションを示しています。

ライセンスの切り替え	切り替えが必要な理由
試用版 > 製品版	試用版から製品版にアップルグレードする。
試用版 > 試用版の異なるエディション	個々のニーズにより適したエディションを明確にする。
試用版 > 製品版の異なるエディション	購入したエディションが試用版のエディションとは異なる。

Acronis Deduplication や Acronis Universal Restore が切り替え先のバージョンやエディションで利用可能な場合は、追加のライセンスを使用することで、これらを有効にすることもできます。

アドバンスト エディションとスタンドアロン版の間で切り替えを行うことはできません。

ライセンスを変更するには

1. **[ヘルプ] > [ライセンスの変更]** をクリックします。
2. 新しいプロダクト キーを入力します。Acronis Universal Restore のプロダクト キーを持っている場合、そのキーをここで追加することができます。

Acronis Universal Restore の試用版を使用中には有効にすることはできません。

Copyright © Acronis, Inc.

4　ソフトウェアのアップデートの確認

管理コンソールを開始するたびに、Acronis Backup & Recovery 11 によって、Acronis Web サイトにソフトウェアの新しいバージョンがあるかどうかが確認されます。新しいバージョンが見つかった場合、新しいバージョンのセットアップ プログラムをダウンロードするためのリンクが提供されます。

アップデートを手動で確認するには、管理コンソールを開始し、**[ヘルプ] > [アップデートの確認]** をクリックします。このウィンドウで、アップデートの自動確認を無効にすることもできます。

Acronis Backup & Recovery 11 のアップデートの詳細については、「アップデート」セクション（12 ページ 』を参照してください。

Copyright © Acronis, Inc.

5 Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストール

このセクションでは、Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストールについて説明します。

5.1 対話型アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11 をアンインストールする場合は、Windows の **[プログラムの追加と削除]** または **[プログラムと機能]** ツールではなく次の手順に従うことをお勧めします。

Acronis Backup & Recovery 11 をアンインストールする手順は、次のとおりです

1. **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストール]** の順に選択します。
2. Acronis Backup & Recovery 11 のログとタスクを削除するには、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェック ボックスをオンにします。後で製品を再インストールする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。
3. **[削除]** をクリックします。

5.2 無人アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11 を無人モードでアンインストールするには、**msiexec** ユーティリティを実行します。このユーティリティでは、製品のインストール パッケージ(.msi ファイル) が使用されます。

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows をアンインストールするときは、機能をアンインストールしてからエージェントをアンインストールし、それから Acronis Backup & Recovery 11 エージェント コア コンポーネントをアンインストールすることをお勧めします。

Acronis Backup & Recovery 11 をアンインストールする手順は、次のとおりです

1. インストール パッケージをフォルダまたはネットワーク共有に取り出します。Universal Restore アドオン (6ページ 』がインストールされていない場合は、**AcronisUniversalRestore.msi** パッケージを取り出す必要はありません。
2. Universal Restore アドオンがインストールされている場合は、次のコマンドを実行します(この手順と次の手順では、インストール パッケージは ¥¥myserver¥share にあると仮定します) 。

   ```
   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisUniversalRestore.msi /qb
   ```

3. 次のコマンドを実行します。

   ```
   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisTrayMonitor.msi /qb
   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi /qb
   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentCore.msi /qb

   msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisStandaloneManagementConsole.msi /qb
   ```


Copyright © Acronis, Inc.

5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup & Recovery 11 をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除するには

1. **[アクション]** メニューで **[Acronis セキュア ゾーンの管理]** をクリックします。
2. **[Acronis セキュア ゾーンの削除]** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放された領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

   複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup & Recovery 11 によってゾーンの削除が開始されます。

Copyright © Acronis, Inc.